

第3章 計画の目標

1 目指す将来像

本計画では、目指す将来像を以下のように定めます。

< 将来像 > みんなで創り育てる環境都市

区全体の将来像として、『輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ』を掲げています。また、この将来像を実現するための「5つの都市像」を定めており、環境分野に関連する都市像は「次代につなぐ環境都市」としています。

これを踏まえ、「第二次品川区環境計画」〔計画期間：平成25（2013）年度～平成34（2022年）度〕では「みんなで創る環境都市 しながわ」を環境面の将来像として掲げ、「環境都市」の実現に向けて、区民、事業者と連携を図りながら取り組んできました。その成果として、区民や事業者における環境意識が定着しつつあり、環境都市としての基盤が整いつつあります。

しかし、地球温暖化の影響が年々顕著になる中でその対策の重要性は高まり、国や東京都が新たな環境施策を打ち出す中で、更に環境保全への機運を高め、区民・事業者が実践的な行動に踏み出すことが必要となっています。このような背景を受け、前計画の中間年ではありますが、計画全体を刷新し、新たに「品川区環境基本計画」を策定しました。

本計画では、「住み続けたいまち」を次の世代にしっかりとつなぐため、多くの可能性が芽生え始めた環境都市の基盤に、実践という水や肥料を与え、更に豊かで実り多い環境都市に育てていくことを目指し、『みんなで創り育てる環境都市』を将来像として掲げることとします。

2 基本目標・共通目標

(1) 基本目標

品川区環境基本計画では、将来像を達成するために区民・事業者・区が連携して取り組む基本目標を、以下のように定めました。

基本目標1 「低炭素な暮らし・仕事・まち」を実現する(地球温暖化対策)

地球温暖化が世界共通の切迫した課題となっていることから、区内で暮らし働く全ての人が「低炭素な暮らし・仕事・まち」を実現するよう基本目標として定めます。

→ 快適で健康な生活につながる、積極的な地球温暖化対策の定着を目指します。

基本目標2 「持続可能な循環型都市」を実現する(資源循環)

私たちの暮らしには、生活していく上で必要な限りある資源を無駄なく効率的に利用する必要があるため、「持続可能な循環型都市」の実現を基本目標として定めます。

→ ごみの発生抑制に努め、ごみの減量化と資源化に取り組んでいきます。

基本目標3 「水とみどりがつなぐまち」を実現する(自然環境)

水とみどりの存在は、まちの魅力を高め生活を豊かにすることから、「水とみどりがつなぐまち」の実現を基本目標として定めます。

→ 水とみどりを守り、育み、活かすことで、魅力あふれるまちを目指します。

基本目標4 「すこやかで快適な暮らし」を実現する(生活環境)

心身を健全に保つ潤いのある暮らしのために、水や空気をきれいにする等、「すこやかで快適な暮らし」の実現を基本目標として定めます。

→ 大気や騒音、水質等を改善し、全ての人が安心して暮らせるまちを目指します。

基本目標5 「やすらぎとにぎわいの都市景観」を形成する(文化環境)

長い歴史と新しいまちづくりが交錯する状況では、歴史を尊重しつつ新しいにぎわいを生み出していくことが重要であることから、「やすらぎとにぎわいの都市景観」の形成を基本目標として定めます。

→ 歴史・自然・文化的景観を後世まで伝えるとともに、地域の特性と個性を活かし、やすらぎとにぎわいが共存する活気あるまちづくりに取り組みます。

(2) 全ての基本目標の土台となる共通目標

基本目標1～5の実現は、それを実践する人の存在が不可欠であり、その育成は分野横断的に取り組む必要があります。そこで、全ての基本目標の土台となる共通目標を以下のとおり定めます。

共通目標 「日常的に実践する人」を育てる(環境教育・環境コミュニケーション)

環境都市としての機能や役割を充実させるために、区民一人ひとりが「日常的に実践する」ことが必要不可欠であることから、その育成を共通目標として定めます。

- ➔ 区民・事業者・区がそれぞれの役割を理解し、環境保全に関する取り組みをより身近なものとして実践するとともに、地域や世代を超えた新たなコミュニケーションの創出により、実践の輪の拡大を目指します。